

二〇二一年度

一般公募推薦入学試験

【適性検査】

「国語」問題

1. 問題および解答用紙は試験開始の合図があるまで開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 試験終了後、解答用紙を問題の上にふせて置いてください。
5. 回収するのは解答用紙だけです。問題は持ち帰ってください。
6. 「国語」の問題は1ページから7ページまでです。

1 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

ところで、多数決というものは、一つの便宜的な方法である。元来、法律は正しいものでなければならぬ。政治は正しい方針によって行われなければならない。しかし、どうするのが正しいかについては、いろいろと意見が分かれていて、いくら議論を続けても、意見の一致点を見いだすことができないという場合には、法律を作ること、政治の方針を決めることもできないから、やむをえず多数決によるのである。

しかしながら、多数の意見だからかならず正しいと言いうるであろうか。少数の賛成者しか得られないから、その主張は、当然まちがっていると考えてよいものであろうか。そうは言いえないことは、もとより明らかである。実際には、多数で決めたことがあやまりであることもある。少数の意見の方が正しいこともある。むしろ、少数のすぐれた人々がじっくりと物を考えて下した判断の方が、おおぜいだがやがやと付和雷同する意見よりも正しいことが多いであろう。いや、国民の中でいちばん賢明なただひとりの考えが、最も正しいものであるということができるであろう。それなのに、なぜその少数のすぐれた人々、最も賢明なただひとりの人の意見を初めから採用しないで、おおぜいにかけてな意見を言わせ、多数決というような機械的な方法で、その中のどれか一つに決めるというやり方を行う必要があるのだろうか。

多数決に対しては、昔から⁽¹⁾そういうもつともな疑問がある。いや、単に疑問があるばかりではない。それだから、多数の意見によって船を山にあげるような民主政治をやめて、最も賢明な人に政治の実権を任せてしまう方がよい、という議論がある。その中でも最も有名なのは、ギリシアの哲学者プラトンの唱えた哲人支配論である。

プラトンは、おおぜいの愚者が数の力で政治を行う民主主義を排斥し、最もすぐれた理性と、最も高い批判力とを備えた哲人が政治を指導するような組織こそ、墮落した人間の魂を救う理想の国家形態であると論じた。このプラトンの理想国家論が後世の政治哲学の上に及ぼした影響は、きわめて大きい。

けれども、プラトンの理想国家論は、政治の理想であるかもしれないが、これをそのまま現実に行おうとすると、かならず失敗する。なぜならば、最も賢明だと称する人に政治の全権をゆだねて、一般の国民はただその哲人の命令に服従してゆけばよいというのは、けつきよくは独裁主義にほかならないからである。独裁主義によれば、独裁者は国民の中でいちばん偉い人だから、その人の意志に従っていけばまちがいはないという。しかし、独裁者が国民の中でいちばん偉い、いちばん賢明な人物であるということは、いったいだれが決めるのであろうか。独裁者のお取り巻きがそう言ったからといって、それがそうであるという保証にはならないし、実際にはそれがたいへんなまやかしものであるかもしれない。また、よしんば独裁者がほんとうに偉い人であったとしても、同じ人間が長いこと

大きな権力を握っていると、必ず腐敗が起り、墮落が生ずる。そうして、権力が少数の人々に集中しているために、⁽³⁾それが薬にならずに、毒となって作用する。その悪い作用を国民に隠して、独裁政治のいい点だけを宣伝するために、いろいろなうそをいう。無理な政治をして、はなばなしい成功を誇ろうとする。その結果は、無理に無理を重ねて、国民をならくのふちにおとしられるような、取り返しつかない失敗を演ずる。ヒトラーを無類の英雄に仕立てて、これこそプラトンの理想国家を実現したようなものだと思わせていたナチスドイツの運命は、独裁政治を二度と再び繰り返してはならないという教訓を、人類にはつきりと示したものであるといわなければならない。

⁽⁴⁾独裁主義は、民主政治を「衆愚政治」だと言って非難する。なるほど、民主主義もそういう弊害に陥ることがないとはいえない。しかし、教育が普及し、知識が向上した今日の国民は、プラトンの時代の国民とは違う。国民が健全な政治道徳を心得てさえいれば、おぜいの人々の考えを集めて事を議してゆくことは、「A」多くして船山にのぼる」結果にはならないで、「三人寄れば B」の知恵」という利益を大いに發揮することができ。政治のたいせつな要点を国民に隠して、ただ指導者の言うがままについて来させたのでは、国民の中にある知恵の鉱脈を掘り当てることできない。そうして、国民が目隠しをされるばかりでなく、独裁者もまた国民からの批判を受ける機会がないから、自分自身も目が見えなくなつて、馬車うまのように破滅のふちに突進してしまふ。⁽⁵⁾その危険を避けるためには、なるべく多くの人々が政治に参加して、多数決で意見をまとめてゆくという以外に、よい方法はないのである。

それに、民主主義もまた、決してただ玉石混交の衆議だけを重んずるのではなく、国民の間から識見のすぐれた人を選んで、その人に政治を任せるといふ方法をも用いるのである。国民がみんな法律を作ることを議する代わりに、国会議員を選挙し、その道の熟練家に立法の仕事を任せるのも、それである。国会の指名によって内閣総理大臣を立て、他の國務大臣には内閣総理大臣がこれかと思う人々を選び、その政府が行政をつかさどつてゆくようなくみになつてゐるのも、それである。ただ、立法権にせよ、行政権にせよ、ある決まつた人ただだけが長くそれをひとり占めしていると、きつといろいろな弊害が生ずる。ちやうど、水が長いこと一箇所にたまつてゐると、ぼうふらがわいたり、腐つたりするように。だから、民主政治では、国会議員の任期をかぎつて、たびたび総選挙を行い、それとともに政府の顔ぶれも変わるようにして、常に政治の中心に新しい水が流れ込むようなくふうがしてある。つまり、民主政治は、「多数決主義」と「選良主義」⁽⁶⁾との長所をとつて、それを組み合わせたとやうなくあいになつてゐるということができよう。

『民主主義』文部省著作教科書 昭和二十三年 より
作問のため本文を改めた箇所がある

問1 — 線部(1)「そういうもつともな疑問」とありますが、それはどのような疑問ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア なぜ、最も賢明なただひとりの意見が、大勢でがやがやと付和雷同するような意見に取り込まれてしまうのか。

イ どうすれば、少数の優れた人々の正しい意見を、多数の国民の間違った意見に優先して採用することができるか。

ウ どのような点において、少数の優れた人々、最も賢明なただひとりの意見が、大勢の意見に対して優越していると言えるか。

エ どうして、最も賢明な人の正しい意見をはじめから採用しないで、多くの人の意見の中から最も多いものに決めるといふやり方をするのか。

問2 — 線部(2)「プラトンの理想国家論」とありますが、この「プラトンの理想国家論」について本文の趣旨を次のようにまとめました。空欄に当てはまる適語を本文中よりそれぞれ2字で抜き出しなさい。(ただし、ロとハには対義語が入ります)

最高の理性と批判力とを備えた イ に権力を委ねることは、確かに政治の ロ かも知れない。しかし、国民の中で「最も賢明なただひとりの人」、という前提自体に疑問はないのだろうか。 ハ にその前提で政治が行われると、 イ 支配は必ず独裁主義に陥ってしまうのである。

問3 — 線部(3)「それが薬にならずに、毒となって作用する」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア どんなに賢明な人物であっても、権力の前には無力である。

イ 本来権力は良い働きをするのだが、時に悪く働くことがある。

ウ 最も賢明な人物といえども、その取り巻きに権力を握られてしまいがちである。

エ 最も賢明な人物が権力を握ったのだとしても、それは良い方向には働かない。

問4 ———線部(4)「独裁主義は、民主政治を「衆愚政治」だと言って非難する」とありますが、このような「独裁主義」からの「非難」に対して、本文は「民主政治」についてどのように説明していますか。説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 民主政治は教育による高い知識と健全な政治道徳を備えた国民による政治である。

イ 民主政治は国民の中にある知恵の鉱脈を掘り当て、その利益を発揮させる政治である。

ウ 民主政治は多少の弊害には目をつむって、なるべく多くの人々が参加すべき政治である。

エ 民主政治はたとえ指導者が誤ったとしても、国民がそれを正すようにする政治である。

問5 文中の空欄 A、B に当てはまる適語をそれぞれ選択肢から選び、記号で答えなさい。

A	ア 船主	イ 宝船	ウ 船頭	エ 船大工
B	ア 釈迦	イ 文珠	ウ 観音	エ 阿弥陀

問6 ———線部(5)「その危険」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 独裁者が政治の要点を隠すことによって国民は正しい政治が行われているかどうか分からなくなり、ひいては独裁者自身も独善に陥るようになって、致命的な失政を招くということ

イ 優れた指導者による独裁は、政治を良い方向へ導くためにはよいかもしれないが、大勢の人々の考えを集めることをしないので民主主義の原則に反してしまうということ

ウ 指導者の言うままに国民をついて来させるのは、独裁主義にとっては都合が良いが、そのために国民は次第に自分たちの考えを封じ込められてしまうということ

エ 独裁者が政治に関する情報を隠すことによって、国民は教育によってせっかく身につけた知恵を失ってしまい、やがては政治から目をそらすようになるということ

問7 ———線部(6)「選良主義」とありますが、最終段落における「選良主義」の趣旨と

して最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 国民が家柄や能力の高い者を選んで国会議員として立法と行政を担当させ、また任期ごとの総選挙によってその顔ぶれを入れ替えることによって、常に新しい環境で三権分立が成立するようにすること

イ 国会が国会議員の中から立法の仕事を行う法律の熟練家を司法の専門家として選び、また内閣総理大臣と国務大臣のような行政の専門家を選任して、立法と行政とが相反することのないようにすること

ウ 国民の中にある玉石混交の衆議から国会議員が特に優れた意見を選びすぐって政治を行い、国会議員の中から選ばれた首相が任意に国務大臣を選んで立法を受け持ち、行政と立法とが円滑に執り行われるようにすること

エ 国民が見識ある人物を国会議員に選んで立法を担当させ、国会議員の中から選ばれた内閣総理大臣が任意に国務大臣を選んで組織した政府が行政を行い、また国会議員の顔ぶれが常に新しくなるように任期を限って改選し、入れ替えるようにすること

2 次の文章は『東遊記』の一節です。本文を読んで後の設問に答えなさい。

1 越前国、鯖江の近辺、新庄村に百姓の家の下にて、何者か声ありて、人のいふことの口まねす。家内の男女大いに驚き、急に床板を引き開けて見るに、何事も見えず。また床をふさぎ人々物言ふ時は、何事にも床の下より口まねす。

2 後には村中の沙汰となり、若き者ども毎夜大勢来たり集まり、いろいろのことをいふに、皆々床の下にても口まねす。上よりおのれは古狸なるべしと言へば、狸にはあらずといふ。然らば狐なるべしといふに、狐にもあらずと言ふ。猫かと言ふに、あらずと言ふ。鼬、河童、獺、土竜、鼠、などいろいろの名を出づるに任せて問ふに、いづれにもあらずと答ふ。然らばおのれはほた餅なるべしと言ひしに、なるほどほた餅なりと言ふ。それよりほた餅化物と異名して、その近辺大評判になれり。

3 このこと城下に聞こえければ、奇怪のことなりとて、吟味の役人大勢来たり。一夜この家に居て試むるに、何の声もせず、役人帰れば、その翌夜はまた声ありて、いろいろのことを言ふ。その後も毎度役人来たりしかど、その来たれる夜は一度も物を言はず。

4 故にせんかたなくて、そのままに打ち捨て置きしが、ひと月ばかりして、その後は何の声もなく、怪事は止みにけり。何の所為といふことも知れず。いかにしてやみたりといふこともなくて、おのづから治りぬ。

問1 ——— 線部(1)「人々」とありますが、誰のことですか。本文中の——線部a～dから最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- a 何者 b 家内の男女 c 大勢 d 皆々

問2 2 段落目までの内容を次のようにまとめました。A、Bの空欄に当てはまる適語を本文中よりそれぞれ抜き出しなさい。

「床下の声」は初めは人の口真似をするばかりだった。評判を聞いた若者たちが集まってきてA(7字)を言ってもそれは同じであった。しかし、その正体について次々に尋ねられると、「～にはあらず」と答えるようになる。そして、ついには若者たちが面白半分で言ってみたことに対して、B(9字)ともってもらしく、その〈正体〉について応答したのだった。

問3 ———線部②「何の所為といふことも知れず」の解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 残念ながら、「役人」の努力は実らなかった。
- イ 結局は、「床下の声」が何かは分からなかった。
- ウ やはり、「ぼた餅化物」の嘘は突き止められなかった。
- エ そもそも、「奇怪なこと」には原因がないことが明らかになった。

問4 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「若き者ども」には初めから声の〈正体〉が分かっていた。
- イ 世評を聞きつけた役人は、調査のために訪れた百姓の家で「ぼた餅化物」の声を何度か聞いた。
- ウ 「床下の声」は、自らの〈正体〉を明らかにしたのちに、様々なことをしゃべるようになった。
- エ 「怪事」はひと月ほどで自然と治まったが、人々には釈然としない思いが残った。

(以下余白)

